

平成 30 年 4 月 18 日 (水曜日)

公的施設活用し にぎわい創出を

足立参院議員、参院国交委で質疑

自民党の足立敏之参院議員は17日の国土交通委員会、空き地・空き家対策などで、空き地再生の推進などについて質問した。写真。



公的な施設や空間を利活用して、にぎわいを生み出すような取り組みへの支援が必要と強調。先進的な事例を紹介しながら、全国各地で個性的で優れた取り組みが広がっていくよう求めた。

都市部では空き地・空き家が時間的・地理的にばら

ばらに相次いで増えている。国土交通省は、この現象を内部に細かな穴が無数に空いたスポンジに見立て「都市のスポンジ化」と表現している。

足立氏は、都市のスポンジ化対策として「さまざまに都市再生の施策と合わせて、中古住宅のリフォームや空き家の利活用、再生が重要だ」と指摘。先日視察した和歌山市での空き地・空き家の解消対策を紹介し、「有休不動産を大切なストックとして再開発とリノベーションを組み合わせている。オープンスペースを活用したイベントなどにより、日ごろ寂しい地域ににぎわいが生まれている」と述べた。

答弁を求められた石井啓一国交相は「自治体が主体

性をもって官民共同で個性ある街づくりを進めるため、コンパクトシティ形成支援チーム（国交省など関係10省庁で組織）による取り組みを進めるなど、関係省庁が連携し、全力で自治体の取り組みをサポートしていく」との考えを示した。

このほか足立氏は、大分県中津市で11日未明に発生した土砂災害についても言及。突発的な災害の徹底した原因究明を求めるとともに、「現地では国交省の砂防の専門家やテックフォース（緊急災害対策派遣隊）、地元建設協会を通じた重機と作業員の派遣など、献身的に対応いただいている。くれぐれも二次災害が起きないよう留意してほしい」と述べた。